地域医療に意欲

西村光滋内科医長

―白老の印象について。

「白老は苫小牧と室蘭・登別に挟まれ、以前住んでいた八雲町と比較すると住みやすい。現場で感じていることは、時間的な制約もあって、これまで患者さんへの説明がうまくできていない側面もあったのでは。外来でも、なぜ今この治療が必要なのかといったところまで説明するようにしている。医者が説明を尽くせばクレームも少なくなる。患者さんの満足度を上げるように医療を進めていきたいし、白老での地域に合った医療にやりがいを感じている」

―地域医療への思いを。

「今までは大きな病院勤務が多かった。静岡の医療過疎地で勤務した時に、やってきた医療が違うと実感した。地域医療で必要になることは病気を見つけて治療するだけではない。病気を見つけても高度医療が適応にならない患者さんもいる。この場合も本人や家族への説明がある。高齢者に対する医療を理解する必要がある。ガイドライン上の適応だけで患者さんの治療方針を決めていてはいけない。白老は地域医療を体現・勉強する意味でもいい環境だと思う」

―来年新築となる新病院への思いと抱負を。

「今は病院の内部の体制を整えている。これからは中で働く医療者の意識を変えていかなければならない。看護師のレクチャーも行っており、医師と連携しながらお互いにレベルを上げていきたい。今後、電子カルテが入ってくることで効率よい運営ができてくる。これからは医療者が公民館などの外へ出て治療・予防に当たるなど、病院をアピールするような活動も重要になってくる。独居の高齢者、老老介護の実態も考えながら、病気だけじゃなくて生活も成り立っているか―を問う医療をしていく」

―趣味は。

「食べ歩き。白老は肉も魚介類も有名だし、おいしいものが多くていいですね。ワカサギ釣りやサップ（ウオータースポーツ）もやってみたい」

にしむら・みつしげ

身近な相談など総合的医療を担うプライマリケアの認定医・指導医。大阪市出身、56歳。